研究報告：

農村過疎地域における在宅介護の実態 ——性差による介護サービスの満足に関する要因——

中 田 久 恵*・仲 根 よ し 子*・大 槻 優 子*

本報告は、農村過疎地域における在宅介護の実態として、介護サービスの満足に関する要因を、介護者の男女差の視点から明らかにすることを目的とする。調査は、在宅で65歳以上の方を介護した経験がある方を対象に、無記名式質問紙を用い行なった。調査内容は、対象者の属性、介護サービスに関する内容（介護保険制度、使用している介護サービスの種類、要介護度）、介護サービスの満足度と満足に関する記述内容である。介護サービスの満足度の有効回答数は130名で、女性78名、男性52名であった。介護経験者の年齢は、60歳以上が71.6%であった。介護サービスの満足度の結果は、介護者の52.3%が利用した介護サービスに満足していた。性別と満足度の関連性はみられなかったが、満足に関する自由記述内容を質的に分析した結果、女性介護者は【介護からの一時的な解放】【サービス提供者間の連携】【サービス資源の充実】、男性介護者は【政策への不満】【経済的負担】の категорияが抽出された。また、女性介護者、男性介護者の共通の категорияとして、【状況・状態にあったサービスの提供】【心遣いのある対応】【介護者（家族）の安心感】【ケアマネジャーの力量】の4つの категорияが抽出された。介護サービス提供に関わる専門職者は、介護サービスの提供において性差の特徴を踏まえた支援が重要であることが示唆された。

①農村過疎地域 ②在宅介護 ③介護サービス ④性差 ⑤満足

緒 言 （目 的）

我が国の高齢人口は、年々増加の一途をたどり、特に農村地域の高齢化率が高くなっている¹⁾。農村部の中でも人口減少が著しく、高齢化率も高い地域とされる過疎地域においては、老老介護に成らざるを得ない状況にあり、在宅介護の支援は重要課題のひとつである。我が国の政策である地域包括ケアシステムは、「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続す

ることができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す²⁾とし、おおむね30分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域を単位として想定されている。しかし、農村過疎地域は、医療機関や在宅サービス機関、介護老人福祉施設等のサービス施設までの距離、設置数などに限りがあり、サービスの受給に影響を与えるため、農村過疎地域の特性を考慮した対策が必要である。本研究により、農村過疎地域で介護サービスを利用し、在宅介護経験者の介護サービスの満足に関する要因を明らかにすることは、その対策の一助となると考える。

平成28年度厚生労働省国民生活調査によると、主な介護者の状況として、同居して介護を

* 〒300-0051 茨城県土浦市真鍋6-8-33
つくば国際大学医療保健学部看護学科
(受付：2018年7月9日)

行なっている割合は58.7%で、男女の割合は、女性が66%、男性34%であった。また、男性と比較して女性の割合は高いが、男性が主な介護者となるケースが徐々に増加しており、介護者の年齢層も60歳以上の占める割合が高くなっている³⁾。男性介護者の増加傾向は、農村過疎地域においても同様にみられると推察され、性差における特徴を踏まえた在宅介護の支援方法の開発が必要である。

本報告は、農村過疎地域の在宅介護者の介護サービスの満足度と満足に関する要因の性差による特徴を明らかにし、介護者の性差に即した支援方法を検討する基礎資料を得ることを目的とした。

対象および方法

1. 対象者

北関東で高齢化率の特に高い農村地域において、在宅で65歳以上の方を介護した経験がある方および現在介護をされている方を対象とした。調査方法は、タウンメールを利用し、2,993戸に無記名式質問紙および返信封筒を同封し配布した。質問紙の回収数は261名で、調査項目の性別及び年代の区別は無回答であった17名を無効とし、244名を分析の対象とした。本報告ではさらに満足度に関する有効回答があった女性78名、男性52名、計130名を対象とした。

2. 研究方法

調査期間は平成27年8月～9月である。調査内容は、対象者の属性に関する内容（性別、年代、家族構成、職業）、介護期間、介護保険制度についての認知、介護認定の有無、介護サービスの満足度、介護サービスの満足に関する内容を自由記述とした。介護サービスの満足度は、「大変満足」「満足」「どちらでもない」「不満」「大変不満」の5段階評価とした。本報告では、介護経験者の年齢、性別、使用している介護サービスの種類、介護サービスの満足度および介護サービスの満足に関する自由記述内容をデータとした。

3. データ分析方法

データの集計、分析には統計解析ソフトIBM SPSS Statistics23.0 for Windowsを用いた。介護サービスの満足度の男女差についてはPearsonの χ^2 乗検定（ $p < 0.05$ ）を行ない、性別と介護サービス満足度の関連性はMann-WhitneyのU検定を行なった。

介護サービスの満足に関する自由記述内容の分析は、研究対象者130名のなかで記述があった女性介護者66名、男性介護者32名、合計98名を対象とした。データは、Maryrig（2000）の内容分析の手法を用いて以下の手順で分析した。①研究対象者（介護経験者）が記述した介護サービスの満足に関する自由記述から、介護サービスの満足の要因となる文脈を抽出し、要約的、説明的、構造的に文脈をコード化した。②コード化した内容を類似するもの、相違するものに分類し、サブカテゴリー、カテゴリーを生成した。③分析の妥当性は、質的研究の経験のある研究者3名で検討を重ね、検証した。

4. 倫理的配慮

調査票は、研究の主旨、研究方法、プライバシーの保護について記載し、研究への同意は本人の自由意思によるものであり、質問紙への回答、返送をもって同意が得られたとみなすことを記述した。本研究は、つくば国際大学倫理委員会の承認（第26-16）を得て実施した。

結 果

1. 対象者の年齢構成（図1）

介護サービスの満足度に対する回答数は130名であり、女性は78名（60.0%）、男性は52名（40.0%）であった。全体の年齢構成で最も多い年代は60歳代の51.6%であり、ついで50歳代の24.6%であった。年齢構成は男女間で差がなく、いずれも60歳代の割合が最も高く、60歳以上が占める割合は、全体で71.6%であり、女性介護者では70.6%、男性介護者は73.1%であった。

2. 利用している介護サービスの種類 (図2)

男女とも“通所介護”を利用している方が最も多く、女性介護者の71.8%，男性介護者の67.3%が利用していた。次いで、女性介護者が

利用している介護サービスは、ショートステイ50.0%，福祉用具46.2%，訪問看護25.6%の順であった。男性介護者は、ショートステイ50.0%，訪問介護36.5%，訪問入浴17.3%で

図1. 対象者の年齢構成

注) Fisherの正確確率検定 * $p < .05$

図2. 使用しているサービスの種類 (複数回答)

あった。利用している介護サービスの種類で女性、男性間で有意差を認めたのは、“福祉用具” ($p=0.029$) のみであった。

3. 介護サービスの満足度 (図3)

介護サービスの満足度に関して、「大変満足」「満足」合わせて52.3%で、半数が満足していた。また、男女別にみても、女性介護者が50.0%、男性介護者が55.8%と、現在受けている介護サービスに満足していたことが明らかになった。男性介護者は、女性介護者より満足と感じている方が多い反面、不満を感じている方も女性介護者に比較し多かった。「不満」「大変不満」合わせて、男性介護者が17.3%、女性介護者が12.8%であったが、有意差はみられなかった。また、性別と介護サービスの満足度との関連性もみられなかった (表1)。

4. 介護者の介護サービスの満足に関する要因 (表2)

満足に関する自由記述の内容分析を行なった結果、41のコードが抽出され、女性介護者、男性介護者から抽出されたコード、さらに女性介護者・男性介護者共通のコードに分け、サブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。以下、カテゴリーは【 】、サブカテゴリーは[]、コードは「 」で示し、内容を説明する。

1) 女性介護者から抽出されたカテゴリー

女性介護者の自由記述からは、【介護からの一時的な解放】【サービス提供者間の連携】【サービス資源の充実】の3つのカテゴリーが抽出された。「ショートステイがもっと自由にとれば自分のリフレッシュに時間を使える」など[介護者の時間の確保]によりストレスを軽減することができると感じていた。また、様々なサービスを活用している場合【サービス提供者間の連携】がスムーズに行なえていることが重

図3. 介護サービスの満足度

表1. 性別と介護サービスの満足度の関連性

n = 130				
性別 (n)		サービス満足度 (逆点配置)		p
		平均ランク	順位和	
性別 (n)	男性 (52)	67.05	3486.5	0.689
	女性 (78)	64.47	5028.5	

注) Mann-Whitney の U 検定

要であり、満足の要因になっていた。農村過疎地域の特徴ともいえる近隣との距離やサービス[施設の不足]から【サービス資源の充実】も望んでいることも明らかになった。

2) 男性介護者から抽出されたカテゴリー

男性介護者の自由記述からは【政策への不満】【経済的負担】の2つのカテゴリーが抽出された。[国の制度への不満]では、「介護制度ができて15年経過しているにも関わらず、国の施策が国民からかけ離れている」「抜本的な見直しが必要。現状と現場をしっかりと見てほしい」など、日々の介護に対する問題意識よりも、大局的な視点での政策に対する不満を抱いていた。また、【経済的負担】として、「介護用品を購入した時に、請求金額に上限があるので、購入を控えてしまう」「サービス利用のための借金をした」など、[サービス利用のための資金繰り]ができるかどうか、介護サービスの満足度に関連していた。さらに、「介護保険料だけ取ら

れている」と、保険料そのものに対する負担感を感じていることも明らかになった。

3) 女性介護者・男性介護者から抽出された共通のカテゴリー

【状況・状態にあったサービスの提供】【心遣いのある対応】【介護者（家族）の安心感】【ケアマネジャーの力量】の4つのカテゴリーが抽出された。

【状況・状態にあったサービスの提供】は、3つのサブカテゴリーで構成された。女性・男性介護者は共に、[デイサービスやショートステイサービスの活用]ができることに満足を感じていた。また、被介護者の加齢に伴う必要な介護内容の変化や病状の好転や悪化に対しての迅速な対応として[介護度の変化に応じたサービス]を提供されることも満足の要因となっていた。しかし、介護者の個々の急な都合に対応できていない現状もあり、[個別性の考慮]を求めているという側面も明らかになった。

表2. 満足に関する要因

	カテゴリー	サブカテゴリー
女性	介護からの一時的な解放	介護者の時間の確保 家族のストレスの軽減
	サービス提供者間の連携	支援先の窓口の違いの戸惑い 介護保険の浸透
	サービス資源の充実	一人で過ごす時間帯の心配 施設の不足 サービスの時間が短い
男性	政策への不満	国の制度への不満 現状のサービスの妥協
	経済的負担	サービス利用のための資金繰り 介護保険料に対する負担感
男女共通	状況・状態あったサービスの提供	デイサービス・ショートステイの活用 介護度の変化に応じたサービス 個別性の考慮
	心遣いのある対応	専門職者の親切な対応 専門職者の好感もてる人柄 家族を含めた支援 終末期の対応
	介護者（家族）の安心感	サービス利用による効果 丁寧な支援技術 時間の厳守 納得したサービス内容
	ケアマネジャーの力量	家の事情を把握している 詳細な相談ができる

【心遣いのある対応】は、「職員皆が親切にしてくれる」「優しい言葉で対応してくれた」「私（介護者）の体調まで心配してくれた」など精神的な支援が満足の原因となっていた。

【介護者（家族）の安心感】は、「介護サービスを受けるようになって、本人に自立した行動力が湧いてきている」「デイサービスに行くのが楽しみになっている」など、目に見える介護サービスの効果が介護者の安心感に繋がっていた。また、介護者にとって、ケアマネジャーが「家の事情を把握している」か否か、「詳細な相談ができる」か否かが【ケアマネジャーの力量】を押し量る原因となっていた。

考 察

1. 農村過疎地域における背景的特徴

平成28年度厚生労働省国民生活基礎調査によると、同居して介護を行なっている介護経験者の年齢構成は60～69歳が最も多く、女性が33.1%、男性が28.5%であった³⁾。本報告の結果も同様に、60～69歳の割合が最も高く、女性が47.5%、男性が57.7%であった。介護経験者は60歳以上が男女とも7割を超えていたことから、対象とした農村過疎地域の介護者が高齢であることが明らかになった。また、核家族の増加、女性の社会進出に伴って男性介護者が増加傾向^{3,5)}にあるように、本調査結果も同様に男性介護者は、対象の4割を占めていた。さらに男性介護者の年齢が高齢ということは、先行研究^{4,8)}の報告にあるように、無職が最も多く、仕事をリタイヤした後に家族の介護を始める状況にあると推察できる。女性介護者は、家事と仕事、または家事と介護を日常行なってきた。しかし、男性介護者は、家庭以外の生活に重心をおいていた生活から、不慣れな家事を行ないながら、介護に携わることになる。和氣ら(2017)⁴⁾や斎藤(2011)⁶⁾が、男性介護者の支援の必要性を明らかにしているように、介護に携わる専門職者は、介護者の背景の1つである性別を考慮する必要があると考える。

2. 介護サービスの満足に関する要因

本報告において、介護サービスの満足度の男女差、および関連性に関しては統計学的な有意差はみられなかった。しかし、自由記述内容を質的に分析した結果、女性介護者、男性介護者、それぞれの特徴となるカテゴリーが抽出された。女性介護者の特徴として、【介護からの一時的な解放】は、レスパイトケアとなる介護者の気分転換に対するニーズを示していた。大概ら⁷⁾が述べているように、女性介護者は自分の時間の確保により気持ちの切り替えができ、介護へのモチベーションを保つことができるのではないかと考える。また、【サービス提供間の連携】【サービス資源の充実】は、現実的な日々の介護をスムーズに行なえるようなサービスを求めていることを表していた。

一方、男性介護者は、日々の現実的な介護内容よりも、【政策への不満】というカテゴリーが抽出されたことから、制度や政策といった法的制度の改善が満足につながると考える。我々の先行研究⁸⁾の結果で、男性介護者は女性介護者よりも、“福祉用具の貸与”と“通所リハビリテーションの活用”が有意に少ないことを報告した。男性介護者は、政策等などの組織的な事柄に対するニーズはあるが、道具的資源の活用に消極的であることが窺える。これは、男性介護者の閉塞性や外部へ支援を求めない孤立性の一端を表しているとも考えられる。男性介護者に対しては、介護サービス活用に関する情報の提供を、行政や専門家から発信していく必要性が示唆された。

また、男女共通のカテゴリーが抽出されたことにより、介護には性別を問わず共通点があることも明らかになった。【心遣いのある対応】【介護者（家族）の安心感】は、介護サービス提供者の親身な対応が、満足を左右する一因となり得ることを示している。このことは、介護サービスの満足に関する要因は、介護サービスの資源の充実はもとより、介護者および介護サービス利用者の個別性を理解し、柔軟な対応が必要であることを示唆している。特に【ケアマネジャーの力量】は、満足に大きく影響を及

ばすものであり、ケアマネジャーを中心とした在宅介護は、支援するサービス提供者の能力が強く関与すると考えられる。

介護サービスの満足に関する要因には、介護者が介護をどのように認知的評価しているかが影響を受ける。認知的評価が低い場合、介護への負担感に影響を及ぼすことが明らかにされている^{9,10)}。よって、性差の特徴を踏まえた介護サービスの満足に関する要因を念頭に置き、実際の支援や情報提供方法を考慮する必要があると考える。

満足に関する要因のカテゴリーの内容は、男性女性の特徴として示したが、対象を変えることで特徴の内容も変化すると推察できる。これは本研究の限界であり、また今後の課題としていきたい。

結 論

農村過疎地域における介護サービスの満足度の性差は、統計学的には男女の有意差はみられなかった。しかし、満足に関する要因の質的分析結果により、女性介護者、男性介護者の特徴が明らかになった。このことにより在宅介護に関わる専門職は、介護者の性差を踏まえた支援が必要であることが示唆された。

本研究は、平成27年度つくば国際大学共同研究費の助成により実施した研究の一部である。

著者のCOI開示

本論文発表内容に関連して特に申告なし。

文 献

1) 農林水産省：平成30年度農業構造動態調査。2018

年；<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noukou/index.html> (2018.11.1アクセス)

- 2) 厚生労働省：地域包括ケアシステム，2018年；https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ (2018.11.1アクセス)
- 3) 厚生労働省：平成28年国民生活基礎調査，2017年；<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosal6/dl/02.pdf> (2018.11.1アクセス)
- 4) 和気康太，望月孝裕．单身男性介護者に惹起する生活問題とその支援策に関する一考察—[男性介護者に対する支援のあり方に関する調査研究]の結果を中心に—．社会保障研究 2017；2(1)：60—76.
- 5) 斎藤真緒．「男性介護者全国調査」報告 男性介護研究会，2017；http://www.hew.coop/wp-content/uploads/2010/11/070131_01.pdf (2018.11.1アクセス)
- 6) 斎藤真緒．男性介護者の介護実態と支援の課題—男性介護ネット第1回会員調査から—．立命館産業社会論集 2011；47(3)：111—127.
- 7) 大槻優子，樋口キエ子．家族介護者の負担感に関する研究—性差による相違—．女性心身医学 2012；16(3)：306—314.
- 8) 大槻優子，仲根よし子，中田久恵，他．農村過疎地域における在宅介護の実態—介護サービスに視点をあてて—．日本農村医学会雑誌 2018；67(1)：20—27.
- 9) 広瀬美千代，岡田進一，白澤雅和．家族介護者の介護に対する認知的評価を測定する尺度の構造：高低，否定の両側面に焦点を当てて．日本在宅ケア学会誌 2005；9(1)：52—60.
- 10) 岩田 昇，堀口和子．要介護者の性別および家族介護者の続柄別にみる在宅介護の認知評価，対処方略および生活への影響の相違．日本公衆衛生誌 2016；63(4)：179—187.

Current Conditions of Home Care in a Depopulated Agrarian Region: Factors Related to Sex Differences in Satisfaction with Care Services

Hisae NAKADA*, Yoshiko NAKANE* and Yuko OOTSUKI*

This study sought to determine factors related to sex differences in satisfaction with home care services among caregivers in a depopulated agrarian region. An anonymous questionnaire was administered to caregivers with experience providing home care to individuals aged ≥ 65 years. The questionnaire asked about the basic characteristics of the respondents, the nature of the care services they provided, and their satisfaction and responses after the care services. Valid responses for care service satisfaction were received from 130 individuals (78 women and 52 men), 71.6% of whom were aged ≥ 60 years. Overall, 52.3% of respondents were satisfied with their care services. We did not observe any association between the sex of the caregiver and care service satisfaction. Based on the qualitative analysis of their responses about satisfaction, we abstracted categories that demonstrated the particular characteristics of female and male caregivers. The results of this study indicate that professionals involved in providing care services should base their support on sex-based differences in characteristics.

*Dept. of Nursing, Faculty of Health Sciences, Tsukuba International University, Ibaraki, Japan